障がいのある人とその家族が
地域の中で尊厳を保ちながら
普通の暮らしが出来るよう支援する

NEWS

社会福祉法人
京都障害者福祉センター

2月号
No. 220 R4/2/1
編集：支援センター
発行：本部事務局
http://www.kyofc.or.jp

～新型コロナウイルス～まん延防止等重点措置適用中～

新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」による流行「第６波」が年明けとともに到来し、京都市では１月２９日に過去最高の 1,929 名の新規感染者が確認されるなど連日のように過去最多を更新しております。

１月２７日からは、京都府下全域にまん延防止等重点措置が適用され、感染のピークが見通せない状況となっております。

当法人の施設では、職員、職員の家族、利用者及び利用者の家族で、ＰＣＲ検査を受けられる事例が先月１月は２５件（１２月：３件）あり、累計で１６６件となりました。

内やましな学園（生活介護）では、１月１７日に利用者１名、職員１名の陽性が確認され、１月１８日から同じフロアの山科デイサービスセンターも含めて臨時に休所する措置を取り、感染拡大防止に努めました。その後やましな学園では複数の利用者、職員の感染が確認されましたが、京都市保健福祉局の指導の下、万全の感染症対策を講じたうえ、山科デイサービスセンターは１月２６日から事業を再開、やましな学園では明日２月２日からの再開に向けて準備を進めています。

また、山科会館でも１月２１日に職員１名の陽性が確認され、１月２２日から臨時に休所する措置を取り、１月２６日に利用者、職員のPCR検査の陰性が確認されたことから、１月２７日から事業を再開しました。しかしながら、１月２８日に新たに派遣職員１名の陽性が確認され、１月３１日から再度休所の措置を講じております。

この間、利用者さんやご家族、関係機関の皆様に多大なご迷惑、ご心配をお掛けしておりますことを心からお詫び申し上げます。

オミクロン株による感染拡大は脅威であり、いつどこで誰が感染してもおかしくない状況です。

職員の皆さんにおかれましては、引き続き、マスク、手洗い、距離確保、密の回避をはじめとする日々の感染対策、利用者、職員の健康状態の把握など基本的な対策の徹底をお願いします。

令和３年度勤続 25 周年に４名が表彰されました

当法人では勤続 25 周年を超える期間を誠実勤勉に勤務し、業務の進展に寄与した職員に対して、理事長から表彰を行っております。

例年１月中旬に開催しております法人新年会において、表彰しておりましたが、今年度については、新型コロナ感染症対策で残念ながら新年会を休会としたため、１月１日付けで各施設長から伝達表彰を行いました。

下記の５名の職員が表彰されました。

御受賞誠におめでとうございます。今後益々の御活躍を祈念致します。

小林　勇さん（洛南会館）
安藤　武さん（伏見授産所）
東　真理子さん（やましな学園）
久保田　晶子さん（山科障害者デイ）

小林　勇さんには、１月１３日の管理職会議の席上で、理事長より表彰状と記念品を手渡ししていただきました。

社会福祉事業特別功労者として５名が表彰されました

民間社会福祉施設等の役員及び職員で、その功績顕著なものに対して、社会福祉法人京都市社会福祉協議会会長から感謝の意を表して、例年表彰が行われています。

在職期間１５年以上の職員が対象で、今年度は下記の５名の職員が表彰されました。

御受賞誠におめでとうございます。今後益々の御活躍を祈念致します。

なお、１月１７日にロームシアター京都において予定されていた表彰式は、新型コロナウイルス感染者の急増を踏まえ、中止となりました。

安田　法子さん（本部事務局）
安江　朋香さん（洛南会館）
竹口　純子さん（ふしみ学園）
山下　笑子さん（支援センターらくとう）
東海林　勝さん（やましな学園）

（本部事務局）

洛南エリアTOPICS　　【洛南身障会館】

今年はおひとり二十歳を迎えられました。昨年度もおひとりおられたのですが、その頃会館はコロナ禍真っただ中でとてもお祝いの場どころではなく、遅ればせながら今年一緒にお祝いしました。

一生に一度のお祝いですので、お茶の席でも設けたいところですがこのご時世それもかなわず、お祝いの言葉とプレゼントを贈り、ご本人たちから抱負をうかがい、記念写真を撮るというささやかなものになりました。みんなに注目されてご本人たちはちょっと照れくさそうにされていました。

以前ご利用者、ご家族向けにアンケートを取った際、「成人のお祝いがあれば」と書いておられたご家族がいらっしゃいました。今も昔も、無事に二十歳の節目を迎えたことを心から喜んでいるご家族が本当に多いのだと気づかされます（進学先に住民票を移したから、と成人式のせの字もなかった自分に今更ながら後悔が…）。

ところで「三十路」「四十路」などはよく聞きますが、「二十路」という言葉もあるのかしら？とこの記事を書きつつ調べてみたら、ありました。「二十路」と書いて「はたそじ」と読むそうです。

一方、成人式から幾星霜、還暦を迎える方もいらっしゃいます。今の会館ご利用者の顔ぶれを見てみると、これからは二十歳よりも還暦祝いを迎える方がたくさん控えておられます。こちらも赤いちゃんちゃんこを用意して、無事に還暦を迎えられたことを寿ぐ場にしたいと考えております。

（京都市洛南身体障害者福祉会館：浦川　留美）

伏見エリアTOPICS【伏見デイサービスセンター】

ニューイヤー茶話会で楽しい一時

伏見デイでは、１月２４日から「ニューイヤー茶話会」を行っています。実施にあたり、事前に参加の有無を利用者さん及びご家族からアンケートで確認し、コロナ感染予防対策を行いながら１日当たり２～３名程度の少人数で、２月下旬まで１０回に分けて実施していきます。

茶話会では、美味しいケーキとミルクティーやジュースなどを用意して、１年間を振り返りました。一昨年からコロナの影響で、外出レクレーションや夏のお祭りなどは実施できませんでしたが、これまでのイベントの様子をまとめたスライドショーを流し、当時のことを思い出し談笑しながら、楽しい時間を過ごすことができました。また、プレゼント抽選会では、コップや手提げ袋、ハンドタオルなどが当選し、大変盛り上がりました。

まだまだコロナの影響が心配な状況が続きますが、来年度は皆様が楽しみにしている行事やイベントなどが実施できることを利用者・職員一同願いながら、楽しんでいただけるプログラムを色々と計画しています。

（京都市伏見障害者デイサービスセンター：太田 文一）

山科エリアTOPICS　　【やましな学園】

プチレクリエーション実施しました

今年度もコロナ禍のため日帰りレクリエーションの外出企画は断念せざるを得ない状況となりました。

このような状況ですが利用者さんからはみんなで一緒に楽しめるレクリエーションを希望される声も上がってきています。

そんな希望を実現するため、今年度はプチレクリエーションと題して 11 月 30 日と 1 月 4 日の計 2 回、作業室で楽しめるイベントを実行委員の利用者さんと一緒に企画しました。

第 1 回目はグループに分かれてアイロンビーズやスクラッチアート、山科かるたを、第 2 回目はお正月に関するクイズ大会をそれぞれ適度な距離を保ちながら実施しました。

実行委員の利用者さんもアンケートの集計、プリントの用意、クイズの作成といった事前準備から当日の司会進行役までを張り切って担当されました。

土曜開所以外での久しぶりのレクリエーションは好評でみなさんも満足された様子でした。

実行委員の利用者さんも担当を務めあげられた事に達成感を得られた様子でした。

コロナ禍での厳しい状況はまだ続いていますが、その中でできることを利用者さんと一緒に考えていきたいと思います。

（京都市やましな学園　就労継続支援 B 型事業：柳澤　康博）

利用者絵画展を開催しました！

生活介護事業では、今年も万華鏡ミュージアムに併設されている姉小路館ギャラリーにて、１月７日（金）から９日（日）の日程で利用者絵画展を開催しました。開催直前から新型コロナウイルスの感染者数が増え始めましたが、今年度は何とか通常の開館時間で開催することが出来、３日間で延べ 91 名の方にご来場いただきました。また出品している利用者さんの楽しそうな姿を見られたり、利用者さんのご家族の方々や万華鏡ミュージアムを訪れてたまたま見に来られた方などから、温かい言葉を沢山いただきました。

今回は普段から創作活動に熱心な利用者さんの個人スペースをさらに増やし、共同制作の大型絵画の枚数も２枚から５枚に増やしました。その甲斐もあって、ご来場された利用者の皆さんはご自身の作品の前で写真を撮るなどして楽しそうに過ごされ、ご家族や一般の方々にも、賑やかな展示スペースをゆっくり楽しんで頂けたのではないかと思います。

最後に、このような状況の中会場に足を運んでくださった皆様、素敵なダイレクトメールとポスターを制作してくださった京都市山科障害者授産所の皆さん、ダイレクトメールをお知り合いの方々に積極的に配ってくださった利用者さん、ご家族の皆様、関係機関の皆様に心からお礼を申し上げます。

（京都市やましな学園　生活介護事業：菅　美沙）

「災害時の支援」

『もともと日本社会は他人に迷惑をかけてはいけない』と考える恥の意識が強かったが、ムラ社会的に行動を監視しあう視線だけが残り、自己責任志向が高まった。『支え合い』の具体的なイメージや方法を思い描く事が難しくなっている。

これは１月８日（土）の朝日新聞朝刊「ネット越しの誰か　頼りに」という記事の中で、困窮者が SNS でつぶやく事・発信する事でネットを活用した「寄付」が増加している状況に対し、その背景の説明として、オランダ・フローニンゲン大学　田中世紀氏が指摘している内容となります。（記事によると大手の Amazon なども困窮者らを支援できる応援プログラムを提供しているようです。）

他人を助けたいがイメージがわからない。「自己責任」という言葉で抑圧構造に組み込まれている人や社会に何ができるのだろうか。

この記事を読みながら色々な事を考えたのですが、この「支え合いの具体的なイメージ」という部分について、私達の現場でもよく直面する出来事なのかなと感じています。

現在私たちが取り組んでいる事の一つに災害時の支援があります。

災害時の支援を考える時に、一つの視点として発災直後は隣近所での助け合いが必要なのではないかという考えがあり、地域住民と障害当事者の交流、障害を知る機会の取り組みはできないか…と模索をしながら活動を行っています。

以前、東部自立支援協議会（山科・醍醐・東山）「地域懇談会」という研修会で、「個人情報があるからどこにどのような障害のある方がいるのかわからない。どのような支えが必要なのかわからない」といった地域の民生委員さんの声が多くあった事を覚えています。その事が私の中での引っかかりとしてあり、確かに僕らみたいに普段から関わる機会がそもそもないのだとしたら、関わる機会が必要なのではないか…、地域の中で共通する事といえば「災害」であり、この事をキーワードに地域の中で支え合う取り組みをできないかと考えていました。

そのような中で 11 月 5 日、南区唐橋学区にて高齢分野の地域ケア会議をベースに、地域住民と専門職一緒に「災害支援の学習会・意見交換会」を行いました。

これは中部自立支援協議会（上京・中京・下京・南）災害支援専門部会の取り組みの一つで、今回モデル的な事業として実施しました。

全国で「個別避難計画」の作成が謳われはじめていますが、「個別な計画だけでは不十分で、地域の中で連動した取り組み、地域の中での避難訓練に落とし込む事が必要だ」と佛教大学 後藤先生からの提案もあり、唐橋学区にある西寺育成苑の小原施設長（災害支援専門部会の座長）が具体的な動きを進め、自治会長、地域包括支援センターを巻き込む形で、この学習会へと進める事に至りました。

内容は、今回初めての事という事もあり、まず後藤先生からの災害支援の講義、その後お互いが感じている事の意見交換という形で終了しましたが、地域の方々と専門職との顔の見える関係ができたのではないかなと感じています。具体な事はこれからが大切であり、今後は個別避難計画を作成し、それを地域の中で個別ケア会議的な形で話し合う、地域の避難訓練時に落として実施していく…という事を考えています。

事前の打合せ

当日の様子

地域で、身近で、支え合うとはどのような事か、どのような支えが必要か。

障害福祉の分野、それ以外の分野でもこの「支え合うイメージ」を作り出していく事が必要で、そのためにはまずはどのような形でもいいので実践をしていく、この事が改めて大事なことなのかなと考えています。

～「避難行動要支援者名簿」について～

さて、災害支援に関連した京都市からの情報提供です。

①**「避難行動要支援者名簿」**って知っていますか？

- 災害時の避難に支援が必要な方を記載した名簿です。
- 名簿は、災害発生時の支援に使われます。
- この名簿は障害者地域生活支援センターや地域包括支援センター、民生児童委員に提供されます。

②今回、**この避難行動要支援者名簿の条例が令和３年 12 月に改正されました**。それに伴い、対象者とされる方に「意向の確認書」が郵送される予定です。（すでに郵送されている方もいます。）

- 対象者は・・・
  - 「要介護３以上」
  - 「65 才以上で要介護１・２の方及び、要支援１・２の方のうち、１人暮らしの方など」
  - 「身障手帳１級・２級の方及び療育手帳Ａ判定の方のうち、１人暮らしの方など」
  - 「障害支援区分４以上の方」「京都市の緊急通報システム事業を利用されている方」
  - 「65 才以上で１人暮らしの方（同意のあった方）など」。

※詳しくは、「京都市」「避難行動要支援者名簿」という単語でネット検索して頂けたらすぐに情報が出てきますのでご確認ください！

（京都市中部障害者地域生活支援センター「らくなん」　大塚秀樹）